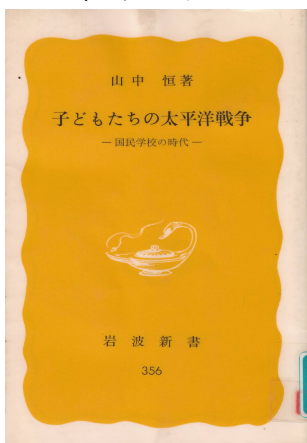


子どもの暮らしにも

いつの世でも、子どもたちは、その時代や取り巻く環境に大きく影響される。友達と長い棒を持って、「兵隊さんごっこ」をして遊んだり、口ずさむ歌も多くは「軍歌」であった。メンコ、トランプ、竹馬、電車ごっこ、凧揚げ、コマ回しなど、みんなで集まって遊ぶものが多かった。また、飴を食べながら見る紙芝居が、子どもたちの娯楽であり、楽しみであった。



子どもたちの太平洋戦争
山中 恒 著
岩波書店 発行

国民学校に変わって、物も消えて

子どもたちの好きな駄菓子屋から、甘味が次第に姿を消し、金属製のおもちゃもセルロイド製に変わっていった。

木綿の運動靴も店頭から消えて、学校で販売された配給のズック靴を買った。ランドセルも本皮のものではなく、代用品であった。

物不足であり、着るものも衣料切符と交換しなければならないため、新しいものを買うことはできなかった。兄や姉のお下がりとは当たり前、穴が開けばあて布をしてつくろって、また着用した。着物をリフォームして、モンペ風にしたものを着る女の子もいた。

男子は、「国民服」と呼ばれるもの（今の学生服のようなもの）が一般的であった。

「広っぱ」の子どもたち

1940年(昭和15年)

捨て犬や、捨て猫をおもちゃにしていたぶっていたり、ヒキガエルをひっくり返して棒で突いていたり……。そうかと思うと、目の色を変えて、鉄火場さながらに口汚く相手を罵りながら、ベエゴマだのビー玉だの、メンコなどを取ったり取られたり……。(中略)あるいは、夕方暗くなるまで、棒きれを振り回してのちゃんばらごっこや戦争ごっこ。(中略)

もちろん、陣取り合戦、影ふみ、鬼ごっこ、かくれんぼなどは日常的に行われ、子どもたちは時を忘れて興じていた。(後略)

「子どもたちの太平洋戦争」山中 恒著より



花茎すもう
終戦50周年記念展
「戦中の市民生活と戦後豊橋の歩み」



豊橋市で配られた衣料切符
豊橋市美術館所蔵

厳しい学校生活

教科書が、国民学校教科書に改訂されたため、兄弟が使っていたものを使いまわしできなくなり、そのうえ教科書は無償ではなかったので、貧しい家庭には打撃であった。

体錬科という学科には、男子には剣道や柔道、女子には薙刀^{なぎなた}の学習が導入された。礼法が重視され、「正常歩」の訓練も厳しく行われた。整列のときには「前へならえ」や「右へならえ」などは、特に厳格に行われた。

集団登校と教師へのあいさつも

毎朝の登校にも規制がかけられ、班長を中心とする班登校になった。班長は、人員点呼、服装検査・衛生検査をはじめ、所持品検査も行った。低学年から順に2列に並び、班長が先頭で学校へ向かう。途中で先生に会えば、全体とまれ」をかけ、「同右向け右」先生、おはようございます」と、声をそろえてあいさつする。校門を入ってからも、奉安殿に向かって「最敬礼」をし、二宮金次郎の銅像にも「礼」をしなければ、それぞれの教室へ向かえなかった。

毎日の朝礼もものものしく

- 1 集合、整列、あいさつ
- 2 国旗掲揚、^{きゅうじょうようはい}宮城遙拝・^{もくとう}黙禱
- 3 ラジオ体操
- 4 校長訓話
- 5 注意事項の伝達
- 6 退場

これらは、たいへん形式的で、子どもたちにとっては苦痛であった。

1,2年生用の新教科書

(旧名称) (新名称)

修身 → ヨイコドモ

国語読本 → ヨミカタ・コトバノケイコ

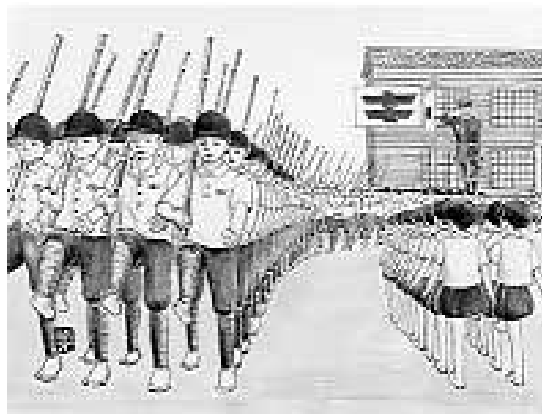
算術 → カズノホン

図画 → エノホン

唱歌 → ウタノホン

習字 → テホン

「子どもたちの太平洋戦争」山中 恒 著
岩波書店 発行



集団で厳しい訓練を受ける子どもたち
「子どもたちの太平洋戦争」より
岡田黎子 画・発行



湊神明社へ集団参拝する
松葉小学校の子どもたち
終戦50周年記念展
「戦中の市民生活と戦後豊橋の歩み」